

## 会議録

会議の名称	第7回 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	平成22年6月24日 17時30分から18時50分まで
開催場所	西東京市役所 保谷庁舎4階第3会議室
出席者	委員：板橋、奥田、水谷、海老沢、櫻井、村田、田中 事務局：西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 宮寺、宮坂、森野、杉野 コンサルタント：2名
議題	開会 (1) 第6回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会議事録について (2) 産業各分野の調査、消費動向調査について (3) 関係団体ヒアリングについて (4) 施策体系・アクションプランの検討について (5) その他
会議資料の名称	資料0 産業各分野の調査 配布標本数一覧、アンケート調査票 資料1 施策体系・アクションプランの策定方法の検討 資料2 施策の体系（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 第6回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会議事録について (事前確認させていただいたところ、期日までに修正要望等はなかったもので、事前確認時のものを議事録として確定し公表する旨、確認した。)</p> <p>(2) 産業各分野の調査、消費動向調査について</p> <p>会長： 資料送付が直前なので、もう少し早く送っていただきたい。</p> <p>事務局： 申し訳ありません。</p> <p>委員： こういうことをアンケートから結論付けたいので、このアンケートを設計しましたという資料を先に出せないのか？</p> <p>事務局： 本日のA3資料のアンケート欄にあるように、今までご議論いただいた内容を踏まえて</p>	

大項目、中項目と設定しており、アンケートで答えていただいたことが、ここへの反映に導かれるのではないかと考えているので、これを参照していただきたい。

中間のまとめで立てた3つの柱などの構成を踏まえて、アンケートを作成している。

会長：

よろしいでしょうか？

委員：

(なし)

会長：

それでは、調査票の内容については、これで固めることとしてよろしいでしょうか？  
(異議なし)

事務局：

では、この内容で実施する。

(票数について、事務局より説明)

委員：

これまでも指摘しているとおり、商業・サービス400、ものづくり200、農業100というのは、母数の事業所数からみてバランスが悪い。なぜ、商業・サービスを400しかやらないのか？

先日、契約や予算を理由にできないと言われたが、契約を理由に件数を減らすことは本末転倒である。委員会で決めたことを実現するのが筋。当初、28商店街にアンケートをすればすむと認識していたこと自体がお粗末。票数を増やすため、改めて予算を検討する、業者と折衝するといった対応をとるのが筋なのに、委員会を大事にしないで、事務局を大事にするのか？おかしい。

契約上の制約といった事項は、委員会に持ち出す問題ではない。それを持ち出すなら、契約書を見せろと言わざるを得ない。委員会で決まったことを運営するのが事務局なのではないか？契約の範囲で実施してくれるというのは、どちらを主に考えた対応なのか？こういう対応は、第1回委員会でした「あんこと皮」の件にもつながる。委員会が大切にされないなら、事務局と業者だけでやればいい。契約を盾にやれなちなどというのが通るのか。

事務局：

前回の意見を反映して出した訂正案である。業者とも交渉し、統計上の標本誤差も勘案して、400という数字で正当な結果が得られる、分母が大きいほど分子がある程度小さくても正当な数字は出てくる。分母が小さいと分子が小さいと偏る可能性があるということで、400、200、100という数を出している。

委員：

統計学の話をするのなら、なぜ消費者アンケートは1,000票にこだわるのか？消費者

を400に減らせないのか？

事務局：

当初の計画では、事業者調査は行わないということでスタートした。途中で変更して、きつい調整になっているが、その中で統計上有意な数ということで、今回の数字を示している。

委員：

何のために調査をするのかというところが見えてこない。委員会の意見を尊重して、それをどう実現するかは、事務局と業者で話し合う問題であって、委員会の席にその話が出ること事態がおかしい。アンケートをやりましたというアリバイづくりをしているようにみえる。これまで、事務局は3者3様の回答をしていて、誰が最終的な回答なのかわからず、委員も困るし、業者も困るだろう。それに振り回されている。そのために、さっと終わるべき議論に時間がかかるということになっている。

会長：

消費者アンケートの票数を700に減らして、その分を商業・サービスにまわせないのか？

事務局：

減らせない。

委員：

発送は終わったのか？

事務局：

印刷の発注は終わっている。

委員：

発送は終わったのか？

事務局：

発送は来週の予定である。

委員：

なら、まだ止められる。

事務局：

そうすると、さらに発送が遅れる。

委員：

なぜ遅れるのか？町丁別に3割減らせばいいだけだ。違うのか？理由にならない理由を言ってほしくない。自分たちで進めたやつは既にやった、こっちが言うやつはできま

せんというのは、おかしい。

委員：

このような議論をしている場合ではない。

委員：

どうせ聴く耳はない。

委員：

比率から言って、消費者に1,000送ること自体はいいのでは？1,000を減らすのではなく、400を増やす方を考えればよい。

委員：

何を言ってもだめ。だから、この会議はせつない。

事務局：

標本誤差等を考えると、減らすことは困難。

事務局：

一般消費者の場合、アンケートの回収率がなかなか上がらないので、3割回収とみており、そのため、1,000通を配布させていただきたい。一方、事業者アンケートは商工会の協力や産業振興課からのアクセスもあることから、消費者よりも回収率を高く見ている。

さらに統計上の検証によると、商業・サービス業は、工業・建設業、農業と比べて標準誤差が最も小さくなっており、400という数字は決して低いわけではない。確かに回収率を低く見ている消費者の配布数が多くなってはいるが、事業者の配布数が小さいというわけではない。

委員：

その場合、結果は分野別にしか出さないでもらいたい。分野の割合が異なる中、すべてを足して、事業所全体の結果はこうです、全体の何%がこういっているとは言わないでもらいたい。各分野ごとに、農業は農業の中でいくつ、工業は工業の中でいくつと、分けて示すということを約束すべきだ。

事務局：

標本数については、統計上ある程度の数字が出るということで決めている。予算の制約もある中、みなさんの意見もうかがいながら調整させていただいた。今回、標本数については、統計上ある程度の成果が出るよう標本数を設定しているので、これをお願いしたい。

会長：

全体をならしてしまうと意味がないという点は、そのようにお願いします。部門ごとの話しかしらないということで。

事務局：

分野別に示す。

(3) 関係団体ヒアリングについて

(事務局より、8月中旬以降にヒアリングを行う旨、説明。これまでに委員会で候補としてあがっていたのは、シチズン、シンエイ動画、西武鉄道。)

委員：

西武鉄道はどの部門を考えているか？

事務局：

アニメとのコラボレーションなど、新たな企画を扱う部門である。

委員：

西武バスも対象にしてはどうか？市内は西武バスと関東バスのどちらが多いのか？

事務局：

西武バスの方が多い。

委員：

では、西武バスを入れてもらいたい。

委員：

100人以上雇用している事業所はどのくらいあるのか？現にかなりの雇用を実現している事業者に話をきいてはどうか？産業振興課では、把握しているのか？

事務局：

統計では数しかわからない。

委員：

数がわかれば、どこなのかだいたいわかるのではないか？雇用の多いところを、商業・サービス100人以上、ものづくり100人以上の企業をリストアップしてもらいたい。それで数があまり多くなるようなら、もう少し絞るとして。

委員：

また、西東京に本店がありながら市外へ転出した企業も対象に加えてもらいたい。たぶんいい話が聴けるだろう？例えば、旭製菓、保谷納豆など。さらに、入ってきたニトリ、サミット、コジマなどにも話を聴きたい。

委員：

周りの商店が弱いから出てきた。バスも弱いし。

事務局：

バスも運行エリアがある。

委員：

出て行ったところについては、私のところでわかる。

会長：

では、1従業員の多いところ、2出て行ったところ、3入ってきたところをリストアップして、それぞれ聴きたいポイントをまとめてもらいたい。

委員：

これらに聴いておけば、最後に報告書に書けることがかなり聴けるのではないか。

会長：

同じことを聞くよりも、対象別にポイントを絞って聴くとよい。

事務局：

企業のリストアップは次回委員会までに行う。

委員：

製造業については、私の方でわかるので、調べる。

委員：

宗教法人は？墓地が増えているが。

委員：

対象外だろう。

副会長：

IHIが転出した理由は市で掌握しているのか？

事務局：

企業の日本全体の戦略の中での転出と聞いている。

委員：

大企業の転出理由は中小企業とは違うので、聞いてもしかたがない。

委員：

ヒアリング件数のめどは？

事務局：

全体で4～5件と考えている。

委員：

シンエイ動画と西武鉄道を含めてその数？

委員：

また、契約のせいでできないというのか？

事務局：

スケジュール面で困難と考えている。ヒアリング時期が遅くなればなるほど、プランへの反映が難しくなるので、早めに行いたい。

事務局：

ヒアリングは8月下旬までに実施すると考えていた。8月の委員会を待って調整となると間に合わない。そのため、1. 従業員の多いところ、2. 出て行ったところ、3. 入ってきたところにあたって、受けてくれるところをそれぞれ2社ずつ選定し、日程をお知らせしたい。

委員：

西武バスなど、はじめから答えがわかっているような気もするが…。

委員：

三幸タクシーにも聴くとよいだろう。

委員：

三幸タクシーはいろいろな情報をお持ちだろう。

委員：

8社はやってもらいたい。

事務局：

ヒアリング項目を叩く時間もないので、事務局で予め作成して、配布して…。

委員：

項目などなくても、ヒアリングはできる。昨年度のヒアリングでも、項目を説明したいでやっていた。

事務局：

企業にお願いするにあたっては、やはり項目が必要と考える。

委員：

礼儀の範囲ということ？でも、前はなかった。

事務局：

しかし、やはり。

委員：

では、いいです。

(ヒアリング対象候補 (委員提案) )

- ・西武鉄道、シチズン、シンエイ動画
- ・さらに、以下から選定
  - 1 従業員の多いところ：岡田食品加工、くすりのダイイチ、マルエツ
  - 2 出て行ったところ：旭製菓、保谷納豆、(高塚のところにあった) 漬物製造
  - 3 入ってきたところ：東光電子、サミット、コジマ、ニトリ、マルエツ
  - 4 交通関係：西武バス、三幸タクシー
  - 5 その他：田無自動車学校、田無ファミリーランド、FM西東京

(4) 施策体系・アクションプランの検討について

会長：

アクションプランとは？

事務局：

資料1の4ページに示すように「当初3年で着手する実施計画」です。

会長：

アクションプランを定めた後、庁内で調整して、その後、どの程度チェックできるか？また、夢ばかり語ってもしかたないので、アクションプランはその後どうなるのかが知りたい。

委員：

アクションプランは、作成しながら関係部署に回して調整し、調整結果をみなさんにお返しするという形で確認しながら盛り込んでいければと思っている。

委員：

農業関係の施策体系に「売り上げをあげる 多様な販路を確保する」とあるが、販路を確保する前に、コンスタントに商品を用意できるかという課題がある。コンスタントに供給できる体制をつくるという施策がいるのでは？

委員：

個々のがんばっている農家、作物をたくさん作って、自分たちの努力で販路を開拓して努力しているところを手助けするということでは、こういう項目をあげていただかないと先に進まない。自給自足的な農家がほとんどではあるが、そうした自給的農家を無理やし引っ張りあげて売り上げを上げさせるというのではなく、努力している人たちに、こういう販路もあるということ提案することに意義がある。そういう農家は既にたくさんの作物を作っているし、努力している。そういう努力をしている人を応援すべき。

委員：

商店街の直売コーナーなども含めた多様な販路ができてくれば、それに対応しようとする人も出てくる。売るための農産物が足りないなどということはない。委員のいう「コンスタントに生産物を供給できない」というのは、ある特定のグループの経験を言っているもので、実状をとらえているとはいえない。

委員：

前日に資料を送られてきて、前もって送った資料について議論しましょうといわれても困る。前日では読む時間がなく、前もって読んでこられなかった。これでは議論できない。本日はこれで閉会とし、別途、本日の資料を議論する場をもつべきだ。

委員：

また、議事録の確認も遅すぎる。せめて、委員会開催から2週間以内には送ってもらいたい。

事務局：

資料送付が遅れたことはおわびしたい。今後は、早めに送付する。

(5) その他

第8回委員会日程：8月2日（月曜日）17時30分から。場所は追って通知。

以上